

10) 偽性アルドステロン症の2例

濱 ひとみ・北里 博仁(新潟医療生活協同)
津田 晶子・濱 齊(組合木戸病院内科)

1968年 Conn によって最初に報告された甘草による偽性アルドステロン症は、甘草の代表的な副作用の一つである。最近腰痛や膝関節痛などの疼痛に対して、漢方薬が多用されるようになり偽性アルドステロン症が増加している。われわれは、ここ4年間に5例の本症を経験した。今回代表的な2例を報告する。

症例1: 74才女性。平成6年から膝関節痛と腰痛があり、近医から防己黄耆湯7.5g/日、芍薬甘草湯6g/日を投与されていた。平成8年2月高血圧出現。平成9年6月中旬から指先と口唇のしびれを自覚。7月四肢のしびれと脱力感強くなり7月8日当科を初診。精査のため即日入院。血圧140/90、筋力は全身的に低下し筋把握痛あり。血清 K 1.8 mEq/l, CK 6860 IU/l, PRA 測定感度以下, PAC 1.1 ~ 1.2 ng/dl, 尿中アルドステロン排泄量 1.1 μg/日と著しく低値。尿中 free cortisol は 1070 μg/日と著増。血中 ACTH, コルチゾールは正常レベルで正常日内変動を示した。漢方薬を中止したところ、1週後に血清 K は 3.5 mEq/L と正常化し、CK も 661 IU/L に低下し、四肢のしびれ、脱力を消失した。3週後には血圧も正常化し、尿中 free cortisol の排泄量も正常化した。

症例2: 85才男性。

平成8年頃腰痛があり、近くの整形外科から芍薬甘草湯7.5g/日が投与された。平成10年1月口渇・頭痛・めまいを自覚し内科医を受診したところ、高血圧と糖尿病を指摘され治療を受けていた。頭痛が持続し、血圧のコントロールが不良のため平成10年5月11日当科を初診し精査のため入院。血圧170/80mmHg, 血清 K 2.6 mEq/L, PRA 測定感度以下, PAC 1.3 ~ 1.9 ng/dl, 尿中アルドステロン排泄量 0.5 ~ 0.8 μg/日と著しく低値。血中 ACTH 及びコルチゾールは正常レベルで正常日内変動を示した。芍薬甘草湯を中止したところ、血清 K 値, PRA, PAC は入院中に正常化し、血圧も3カ月後正常化した。

II. 特 別 講 演

「原発性アルドステロン症 (APA と IHA)」

横浜市立大学医学部第三内科講師

大 村 昌 夫 先生

第75回新潟内分泌代謝同好会

日 時 平成13年4月7日(土)

午後2時15分開会

場 所 新潟東映ホテル

2階 「朱鷺の間」

I. 一 般 演 題

1) 糖尿病と脂質代謝異常

山田 幸男・高沢 哲也(信楽園病院)
岩原由美子(内科)
(同 栄養科)

【目的】糖尿病(DM)に高脂血症を合併した患者では冠動脈疾患などの頻度が高い。そこで当院のDM患者の血中脂質の状態および最近市販されたアトルバスタチン(「ア」)の効果について検討した。【方法】当院のDM外来受診の2063名のDM患者の血中脂質および従来のスタチン系薬剤にても効果不十分な15名(T. chol 240以上)の「ア」10mgに変更後の血中脂質について検討した。【結果】DM患者の血中脂質ではHDL-cが40未満の人は11.1%, 空腹時TG 150以上の人は24.2%と異常値を示す人は比較的少なかったが、T. cholが200以上の人が59.5%みられ管理強化の必要があった。「ア」に変更後は、T. chol 255→205(-19.6%), LDL-c 155→111(-28.4%), TG 210→153(-27.1%), といずれも有意に改善を認めたが、HDL-cは62.0→62.0(0%)と不変であった。【結論】DM患者ではT. cholの高い人が多く、従来の治療で効果不十分な人では「ア」の有効な人が多くみられた。

2) 2型糖尿病患者におけるBG薬の有効性について

宗田 聡・長沼 景子
河内 文女・小林 千晶
五十嵐智雄・丸山誠太郎
戸谷 真紀・金子 晋
鈴木 克典・羽入 修
中川 理・相澤 義房(新潟大学)
(第一内科)

【目的】2型糖尿病患者におけるBG薬の有効性について検討した。【方法】対象は当院通院中2型糖尿病患者男性59名、女性51名の計110名。①metformin 750